

総括

平成 27 年度は、介護事業所での死亡事故・事件、社会福祉法人の内部留保が多額であるとの指摘など、介護事業、社会福祉法人に対する報道が多く見受けられた。年度末に社会福祉法が改正され、社会福祉法人にはより厳しいガバナンスが求められる内容となり、地域に根差した法人として、社会貢献事業をいかに実施していくかが問われている。

介護保険制度改正と社会福祉法改正を受けて、研修に多く参加した。社会福祉法改正は年度末に成立となったが、具体的な内容が見えにくく、平成 28 年度の課題となる。認知症関連・虐待関連の研修もあり、より良いサービスを目指して多くの研修に参加した。利用者負担が増加するほど利用者の目も厳しくなることを意識し、研修が確実に職員のスキルアップになるよう取り組んだ。

特別養護老人ホームの入所要件が介護度 3 以上となり、また利用者負担もこれまでの一律 1 割から一定以上所得のある方は 2 割負担になった。これを試金石に利用者負担の増加が進んでいくことも視野に入れなければならない。金額的な優位性から広報活動を行わずとも入居希望が多数あると考えていたが、多治見市を中心に申込者が年々減少している。

市内で飽和状態にあるデイサービスや居宅介護支援事業は新規獲得が困難な状態が続いた。訪問介護事業はニーズがあるものの担い手となるホームヘルパーの不足により、伸び悩んでいる。短期入所事業は、ショートステイのベッドのうち半数近くを特別養護老人ホーム待機者の長期利用で埋めることで安定した実績を確保している。

ケアハウスは、入所待機者がいないながらも満床を維持してきたが、平成 28 年に入り空床が埋められない状態となった。競合する入所施設が多数あるためであるが、より高額な施設に入所している方も居り効果的な利用者確保の検討が課題となってきた。

人材確保の面では、新卒職員が定着し離職者が少なく推移しているため、人員不足で悩むことはなかった。若干名募集した中途採用が 1 か月を待たずに退職につながるケースが続いた。有料人材紹介を通じたケースだけでなくハローワーク経由でも同様のことがあったため、中途採用を行う際には、十分な説明や配慮が必要である。

人材確保をメインに広報活動を実施してきたが、各事業の利用者または待機者確保のために積極的に広報活動を行う必要がある。

地域貢献活動として市民を対象にした介護教室の開催と、河川敷の整備事業を実施した。河川敷の整備は本格的に職員の業務として職員を配置し、維持管理を行うこととなった。春から秋にかけて、河川敷の散策や土岐川での水遊び、バーベキューなど貢献活動による成果が徐々に出てきているが、さらに整備を効果かつ効率的に行うため、土岐川河川事務所と連携を密にしていく必要がある。家族会の参画や市民に足を運んでもらうための広報など、活動を拡大させられる可能性が見えてきた。

以下に平成 27 年度の実績を掲載する。

理事会開催状況

開催年月日	審議内容
平成 27 年 5 月 25 日	第 1 号議案 平成 26 年度事業報告案について 第 2 号議案 平成 26 年度決算案について 第 3 号議案 平成 27 年度第一次補正予算案について 第 4 号議案 指定介護老人福祉施設運営規程変更案について 第 5 号議案 指定短期入所生活介護事業所運営規程変更案について 第 6 号議案 指定訪問介護事業所運営規程変更案について 第 7 号議案 指定特定施設入居者生活介護事業所運営規程変更案について 第 8 号議案 特別養護老人ホーム屋上防水改修工事契約について
平成 27 年 7 月 10 日	第 1 号議案 定款施行細則の変更案について 第 2 号議案 就業規則の変更案について 第 3 号議案 非常勤職員等就業規則の変更案について 第 4 号議案 役員及び評議員の報酬等に関する規程の変更案について 第 5 号議案 給与・退職金規程の変更案について 第 6 号議案 経理規程の変更案について 第 7 号議案 制度改正に伴う運営規程の変更案について
平成 27 年 12 月 29 日	第 1 号議案 評議員の選任について 第 2 号議案 法人監査における指摘事項について
平成 28 年 1 月 29 日	第 1 号議案 平成 27 年度第二次補正予算案について 第 2 号議案 理事長専決に関する規程の変更案について 第 3 号議案 就業規則の変更案について 第 4 号議案 給与・退職金規程の変更案について 第 5 号議案 経理規程の変更案について 第 6 号議案 特定個人情報取扱規程の制定について 第 7 号議案 評議員の補欠選任について 第 8 号議案 苦情解決第三者委員の選任について 第 9 号議案 業務委託契約の継続について 第 10 号議案 駐車場賃貸契約の継続について
平成 28 年 3 月 28 日	第 1 号議案 平成 27 年度第三次補正予算案について 第 2 号議案 平成 28 年度事業計画案について 第 3 号議案 平成 28 年度予算案について 第 4 号議案 非常勤職員等就業規則の変更案について 第 5 号議案 給与・退職金規程の変更案について 第 6 号議案 寝具賃貸借契約の改定について

評議員会開催状況

開催年月日	審議内容
平成 27 年 5 月 25 日	第 1 号議案 平成 26 年度事業報告案について 第 2 号議案 平成 26 年度決算案について 第 3 号議案 平成 27 年度第一次補正予算案について
平成 28 年 1 月 29 日	第 1 号議案 平成 27 年度第二次補正予算案について 第 2 号議案 苦情解決第三者委員の選任について
平成 28 年 3 月 28 日	第 1 号議案 平成 27 年度第三次補正予算案について 第 2 号議案 平成 28 年度事業計画案について 第 3 号議案 平成 28 年度予算案について

運営組織

会議名	会議内容	開催状況
主管会議	運営に関する検討	毎月第 2 水曜日
職員会議	業務・処遇内容に関する検討	毎月 1 日
行事委員会	行事の企画・検討	月 1 回
給食委員会	献立・栄養管理・給食業務の検討	隔月 1 回
入所検討委員会	入所に関する検討	随時
防災委員会	消防・防災に関する検討	年 2 回

平成 27 年度の主な事業内容

実施日	実施内容
平成 27 年 4 月 23 日	ケアハウス防災訓練
平成 27 年 4 月 30 日	特別養護老人ホーム防災訓練
平成 27 年 5 月 20 日	介護教室開催
平成 27 年 5 月 25 日	第 1 回理事会、第 1 回評議員会
平成 27 年 6 月 1 日	水神祈禱
平成 27 年 7 月 6 日	多治見市社会福祉法人監査
平成 27 年 7 月 10 日	第 2 回理事会
平成 27 年 7 月 26 日	ケアハウス夏祭り
平成 27 年 8 月 23 日	特別養護老人ホーム夏祭り
平成 27 年 9 月 6 日	入居者健康診断
平成 27 年 9 月 9 日	職員健康診断
平成 27 年 9 月 17 日	採用試験
平成 27 年 9 月 28 日	ケアハウス防災訓練
平成 27 年 10 月 7 日	特別養護老人ホーム防災訓練
平成 27 年 11 月 19 日	介護教室開催
平成 27 年 12 月 15 日	介護保険指導監査
平成 27 年 12 月 29 日	第 3 回理事会
平成 28 年 1 月 29 日	第 4 回理事会、第 2 回評議員会
平成 28 年 3 月 2 日	職員健康診断
平成 28 年 3 月 28 日	第 5 回理事会、第 3 回評議員会

職員の状況

1. 特別養護老人ホーム

区分	施設長	施設長補佐	事務員	事務員兼 介護支援専門員	介護支援専門員	生活相談員	介護職員	看護職員	看護職員兼機能 訓練指導員	機能訓練指導員	管理栄養士	運転手	用務員
平成 27 年 4 月 1 日	1	1	3 (1)	1	1	2	63 (19) 内新卒 3	8 (5)	1 (1)	1	1	1 (1)	7 (7)
採用							5 3	2 (1)					
退職							6 3	1					1 (1)
平成 28 年 3 月 31 日	1	1	3 (1)	1	1	2	62 (19)	9 (6)	1 (1)	1	1	1 (1)	6 (6)

上段：() パート再掲、下段：人事異動

2. 在宅サービスセンター

区分	センター長	事務員	デイサービス					居宅	ヘルパー	
			生活相談員	介護職員	機能訓練 指導員	看護職員兼 機能訓練指導員	運転手	介護支援専門員	サービス提供 責任者	訪問介護員
平成 27 年 4 月 1 日	1	1 (1)	1	8 (7)		4 (4)	3 (3)	3	1	5 (5)
採用				1 (1) 1	1			1		
退職				1 (1) 1				1		
平成 28 年 3 月 31 日	1	1 (1)	1	8 (7)	1	4 (4)	3 (3)	3	1	5 (5)

3. ケアハウス

区分	施設長	事務員	生活相談員	計画作成担当者	介護職員	看護職員	看護職員兼 機能訓練指導員	運転手	用務員
平成 27 年 4 月 1 日	1	2 (2)	1	1	13	1	1	1 (1)	9 (9)
採用					1 2				
退職					1 2				
平成 28 年 3 月 31 日	1	2 (2)	1	1	13	1	1	1 (1)	9 (9)

事業所別実績

1、特別養護老人ホーム

①月別利用者数

(単位：人)

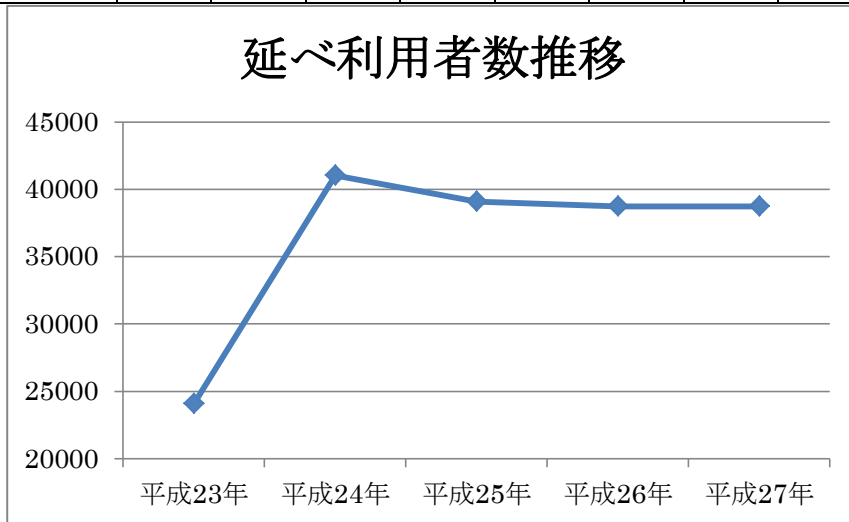
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要介護1	2	2	2	2	2	2	1	1	2	1	1	1	19
要介護2	11	10	9	8	7	7	6	6	6	4	3	3	80
要介護3	25	25	24	26	26	26	25	27	28	30	30	29	321
要介護4	33	36	38	37	34	34	37	33	31	32	32	32	409
要介護5	39	39	35	41	43	46	40	43	47	46	44	45	508
計	110	112	108	114	112	115	109	110	114	113	110	110	1,337

②月別延べ利用者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要介護1	60	62	60	62	62	60	31	30	56	31	29	31	574
要介護2	314	302	270	248	217	210	186	180	178	124	87	93	2,409
要介護3	685	739	644	747	744	720	752	777	819	848	841	849	9,165
要介護4	966	1,077	1,134	1,094	1,024	961	1,080	961	879	924	907	936	11,943
要介護5	1,078	1,098	1,008	1,177	1,246	1,202	1,240	1,277	1,385	1,331	1,259	1,336	14,637
計	3,103	3,278	3,116	3,328	3,293	3,153	3,289	3,225	3,317	3,258	3,123	3,245	38,728

延べ利用者数推移



③年齢分布

(単位：人)

性別	～64	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90～94	95～99	100～	計	平均	最高	最低
男性			1	2	2	6	2	2		16	86	98	73
女性		1	1	2	17	29	28	12	3	96	89	105	66
合計	0	1	2	4	19	35	30	14	3	108	88		

：平成28年3月31日付

④入退所の状況

(単位：人)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
入 所 者	男		3		1	1	1					1		7
	女	1	2	3	1	2	5		3	3	4	3	2	29
	計	1	5	3	2	3	6		3	3	4	4	2	36
退 所 者	男	1	1	1	1	3		1			3		1	12
	女	1	4	1	1		6	1	1	3	4	1	3	26
	計	2	5	2	2	3	6	2	1	3	7	1	4	38

⑤入所経路

(単位：人)

入所前	男	女	計
自宅	5	19	24
介護老人保健施設	2	6	8
有料老人ホーム		1	1
グループホーム		1	1
病院			
ケアハウス		2	2
その他			
計	7	29	36

⑥退所者

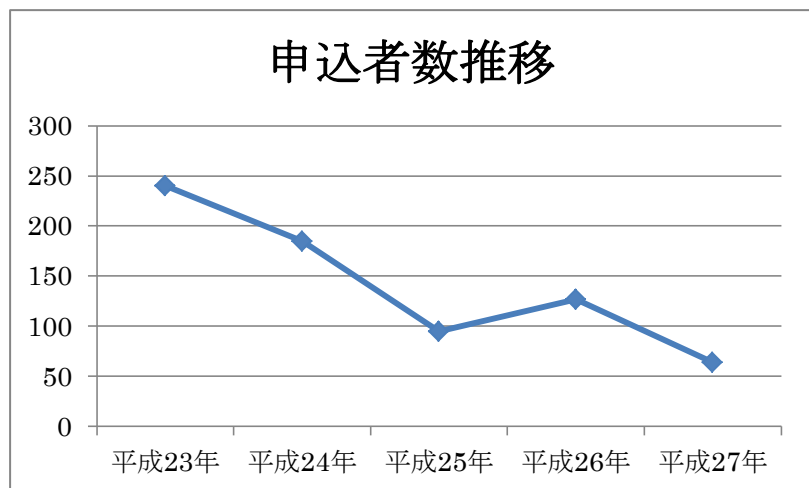
(単位：人)

	男	女	計
入院中	3	9	12
入院中に死亡	4	4	8
施設で死亡	4	12	16
在宅へ	1		1
ケアハウスへ		1	1
計	12	26	38

⑦申込者

(単位：人)

保険者	男	女	計
多治見市	18	24	42
土岐市	5	12	17
瑞浪市			0
恵那市			0
中津川市	1		1
可児市	1	1	2
美濃加茂市			0
関市			0
名古屋市	1	1	2
計	26	38	64



⑧医療機関への通院者数

(単位:人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
救急外来	5	3	4	2	5	5	3	1	5	6	4	8	51
内科	12	10	8	8	9	14	13	12	16	9	8	13	132
外科	3	2	2	2			2	1	3	4	1	1	21
整形外科	1	6	1	4	1	6	5	5	6	9	9	10	63
皮膚科		1		1	1			1	1	1	1	1	8
眼科	1	1		2		2			1			1	8
泌尿器科	3	3	1	4	5	3		2	2		1	1	25
口腔外科										1	2		3
精神科													0
耳鼻科										2			2
歯科	1	2	5	4							2	2	16
合計	26	28	21	27	21	30	23	22	34	32	28	37	329

⑨入院者数

(単位:人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内科	10	4	3	3	3	7	2	1	8	3	1	7	52
整形外科	1						2		1	1	2	1	8
歯科			1										1
泌尿器科						1							1
合計	11	4	4	3	3	8	4	1	9	4	3	8	62

平成 26 年度延べ入院者 62 人 (年度比 0 人)

⑩行事食一覧

日付	内 容	食事内容
4月3日	旧暦おひなまつり	散らし寿司
5月		たけのこごはん
7月7日	七夕	散らし寿司、そうめん羹
7月24日	土用の丑	うなぎ丼
8月23日	夏祭り	夏祭りメニュー
9月20日	敬老会	敬老弁当
10月		松茸ごはん
12月24日	クリスマス	クリスマスメニュー、ケーキ
1月1~3日	三が日	おせち料理、お正月メニュー
1月7日	七草粥の日	七草粥
1月10日	鏡開き	ぜんざい
2月3日	節分	助六寿司
3月3日	おひなまつり	ちらし寿司

⑪主食区分の状況

食 種	人 数	%
米 飯	17	15.5
軟 飯	38	34.6
全 粥	39	35.5
全粥ミキサー	7	6.3
パン	1	0.9
主食なし	3	2.7
胃ろう	5	4.5

⑫副食区分の状況

食 種	人 数	%
普 通	8	7.3
粗刻み	25	22.7
細刻み	54	49.1
なめらか	8	7.3
ミキサー	7	6.4
プリン	3	2.7
胃ろう	5	4.5

⑬研修参加状況

平成 27 年 4 月	岐阜県老施協総会 東信新入社員向けマナーセミナー
平成 27 年 5 月	たじみサービスネットワーク会議全体研修
平成 27 年 6 月	老施協東濃支部幹事会議 岐阜県 DCAT 隊員に対する研修 福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程中堅職員コース 岐阜県老施協東濃支部看護職員研修 高齢者施設における虐待・身体拘束対応研修
平成 27 年 7 月	東海北陸ブロック老人福祉施設研修会 認知症介護実践者講習 職場で活かせるコーチング研修 中部学院実習指導者研修 高齢者福祉施設で働く看護管理者の研修 岐阜県老施協東濃支部栄養士研修
平成 27 年 8 月	岐阜県老施協東濃支部介護職員研修 介護職員スキルアップ講習 福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程チームリーダーコース

平成 27 年 9 月	岐阜県老施協東濃支部事務員研修
平成 27 年 10 月	高齢者施設における虐待・身体拘束対応研修 社会福祉法人会計研修 岐阜県老施協東濃支部幹事会
平成 27 年 11 月	福祉用具・介護ロボットフェア 岐阜県老施協東濃支部相談員研修 介護保険指定事業所集団指導
平成 27 年 12 月	岐阜県社協ターミナルケア研修 認知症高齢者介護職員研修
平成 28 年 1 月	社会福祉法人制度改革対応セミナー 岐阜県老施協施設長・事務長研修
平成 28 年 2 月	岐阜県共済会事務担当者研修
平成 28 年 3 月	岐阜県老施協東濃支部介護職員研修 岐阜県老施協東濃支部介護支援専門員研修 岐阜県老施協東濃支部幹事会 経営協・青年部合同総会

生活相談員所感

平成 26 年度と比較すると、年間延べ利用者数、年間実利用者数共に減少せず、運営することが出来た。平成 27 年 4 月の介護保険法の改正に伴い、要介護 3 以上が特養への入所条件となったため、要介護 4、要介護 5 の利用人数が増えている。その影響で、重度の方の移乗の手間が大きくなり、腰痛を訴える職員が増えた。介護リーダーが中心となり、安楽な移乗方法について 3 か月間勉強会を行った。床走行式リフト等の福祉用具の活用や利用者の残存機能や自然の力を利用した北欧式トランスファーを勉強したが、全職員に浸透することができなかつた。理由は、「福祉用具を使用すると時間がかかるから。」「私は腰痛にはならないから大丈夫。」といった職員の考え方を変えることができなかったためであると推測する。これに関しては、平成 28 年度も継続し、職員の体にも優しい移乗方法を全職員に浸透させるように努力する。

平成 27 年度は積極的に外部研修に参加し、職員の知識の向上に努めた。4 つのフロアをまとめるためには、介護リーダーの知識や技術を向上させることが近道であると考え、介護リーダーの参加を中心に実施した。その甲斐あって、介護リーダーの力量が上がり、各フロアがまとまってきたように感じる。また、介護リーダーが研修で学んできた知識や技術を、研修委員会を通して職員へ指示伝達した。具体的には、研修参加者が各フロアで取り入れると良いと思われることや取り入れたいことをまとめ、研修委員会で話し合い実行した。

高齢者虐待事例が他の事業所で発生しているため、平成 28 年 3 月に「なぜ、虐待が起きるのか。」「虐待の加害者にならないためには。」とのテーマで高齢者虐待防止に向けての勉強を行った。

介護支援専門員所感

新規入所の内訳を見ると、在宅から特養へ入所する事例が多い。在宅のケアマネジャーと連携し、ケアプランを立案し実行することにより、利用者の負担を少なく特養入所に繋げることができた。また、当事業所のショートステイを利用しながら、特養入所を待つて頂く事

により、ご家族も当事業所のサービス内容をより理解頂き、安心して入所されている。

特養入所中に状態が悪くなった場合は、早急に区分変更の申請を行い、その方に合った要介護度の判定を頂ける様に努めた。結果、平均要介護度が昨年度より高くなった。逆に要介護度が軽くなった方には、ケアハウスを勧める等、その方に合った場所で過ごして頂ける様に提案した。ケアカンファレンスの開催数も昨年度よりも増やした結果、介護の統一に繋がった。

申込者数が大幅に減少している。特に多治見市在住の方の申込が、平成 26 年度と比較して半分程度に減少している。他の事業所が多数開設したことが、申込者減少に繋がっていると思う。当事業所の特徴やサービス内容をより多くの方に知って頂く為に、年 2 回実施している介護教室を更に充実させる。昨年度の参加者は少しずつ増えているが、より多くの方に参加頂ける様に内容の吟味や宣伝方法を検討する必要があると思う。

ケアワーカー

職員フロア固定を行い運営している。1 人 1 人の利用者への目配りが出来るため、外出等の個別対応がし易くなった。4 フロア共に、利用者の重度化が進行し、食事介助等の身体介護に占める時間や職員への介護負担が増えている。食事に関しては、日本ゼネラルフードと協力し、食事時間を早める等個別対応をした。また、家族会を通して、フロアごとの食事風景や口腔ケア風景を見学頂き、現状を家族へ説明し、食事時の面会や手伝いを依頼した。

利用者の重度化に伴い、嚥下能力が低下している方が多くなり、誤嚥性肺炎で入院する事例が増えている。食事介助中は、職員が椅子に座り利用者との視線を合わせることにより飲み込み易い環境を作ったり、歯科医師や歯科衛生士からの専門的な助言を頂き、誤嚥性肺炎防止に努めている。

移乗介助の手間が増えているため、2 人介助者リストを作成し、ケアワーカーが無理な移乗介助を行わないように徹底した。

人事考課前の面談を利用して、職員の悩み等の相談できる機会を確保することより、人間関係の悪化が理由での退職者がなかった。

看護師所感

平成 27 年度は入居者のインフルエンザ・ノロウイルス感染症の発生がなかった。利用者の高齢化や要介護度の重度化のため病変が表面化しにくい状況であるが、日々の観察や他職種との連携により重篤化することは少ないと感じる。今後も各部署と連携をとりながら、利用者の健康管理に努めていく。

ケアハウスと特養の両方の業務を正規職員全員で行っているため情報交換を密にするように心がけ、病変時や救急のときに助け合って対応することができた。

平成 27 年 9 月から前川ファミリークリニックからたじみ内科に配置医が変更となり、医師やたじみ内科職員や薬局との連携に苦労した。

特養の看護職員は医療についての最新情報が得にくいいため、岐阜県立看護大学の共同研究への参加や老施協での研修などを通して他施設との情報交換を行い、充実した看護活動の実践につなげていきたい。

管理栄養士所感

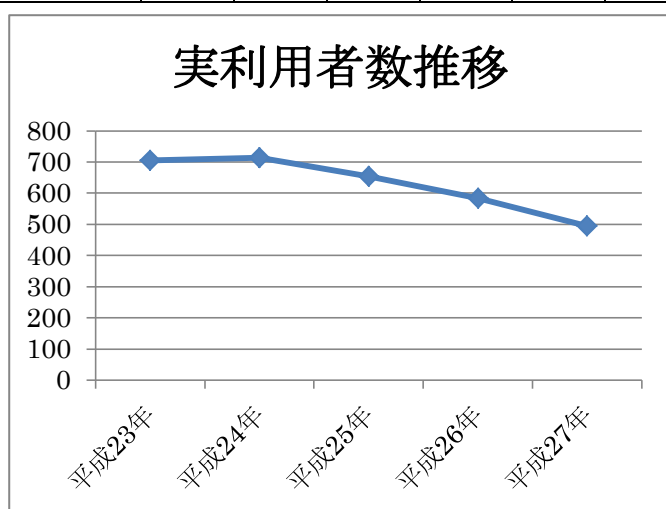
普通食・粗刻みが咀嚼できなくなり細刻みに移行する方が多くいた。嚥下機能も衰えてきて誤嚥性肺炎で入院され、その間に体重も落ち義歯が合わなくなってミキサー食で戻られる方がほとんどであった。

2、短期入所生活介護

①月別利用者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要介護1	5	3	2	1	3	2	1	2	4	2	2	1	28
要介護2	7	8	11	10	7	7	8	9	9	11	10	11	108
要介護3	9	12	14	15	17	16	11	15	13	13	10	8	153
要介護4	10	11	8	8	8	7	7	7	10	9	13	12	110
要介護5	11	8	8	8	8	9	10	11	8	5	4	5	95
計	42	42	43	42	43	41	37	44	44	40	39	37	494

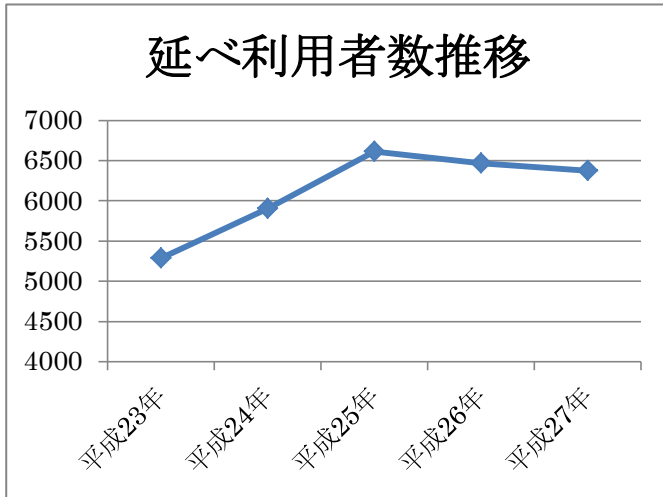


②月別延べ利用者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要介護1	52	37	17	8	12	8	13	20	38	32	54	31	322
要介護2	68	103	113	126	118	68	92	91	99	102	92	128	1,200
要介護3	113	130	195	231	266	289	252	244	252	225	134	160	2,491
要介護4	166	147	114	108	88	84	94	87	96	117	154	221	1,476
要介護5	88	102	120	98	98	72	97	88	75	19	14	17	888
計	487	519	559	571	582	521	548	530	560	495	448	557	6,377

営業日数：366日、一日平均：17.4名



生活相談員所感

平成 26 年度と比較すると、年間延べ利用者数は減少せず運営することができた。しかし、年間実利用者数は減少した。1 人あたりの利用日数が延びたことが理由である。実利用者数が減少したため、日々の入所と退所が少なくなり、持ち物確認等の手間が減り時間にゆとりが出来た。その時間をレクリエーションや利用者の話を傾聴する時間に費やし、サービスの向上に繋げた。

平成 27 年 4 月の介護保険制度の改正に伴い、自立度の高い方の利用(要介護 1 と要介護 2) 重度認知症の方の利用(要介護 3)が増えると想定し、自立度の高い方には、3 階東館に憩いの場所を整備し、そこで、談笑したり、個別レクリエーションを行い、更に満足度を高めるように努力した。また、傾聴ボランティアの方にも協力頂き、利用者とは会話する時間を増やした。認知症高齢者との対応方法が上手くいかずに利用を断ることがないように、介護リーダーが中心となり、3 か月継続で勉強会を行った。中堅職員には認知症高齢者の対応方法の確認、新人職員には知識と技術の向上ができた。結果、要介護 1～要介護 3 までの延べ利用者数は、昨年度と比較しても大幅に増えた。

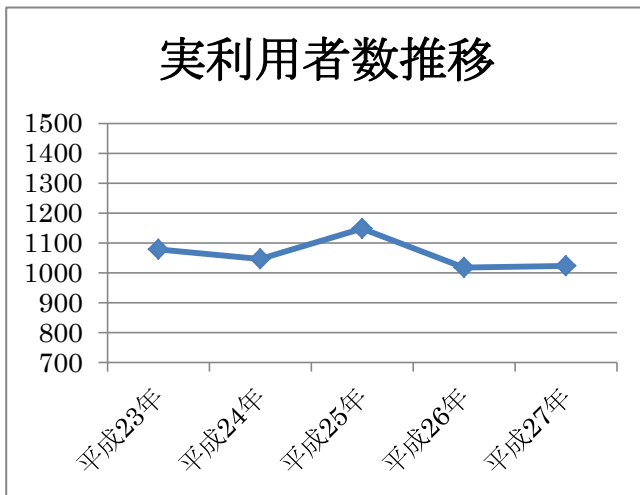
要介護 5 の方の利用数は、昨年度と比較して増えているが、平成 28 年 1 月より減少し始めている。近隣に多数の事業所が開設した影響で要介護度が高い方が積極的に入所されたことが理由である。

3、デイサービスセンター

①月別利用者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要支援1	3	3	3	4	4	4	3	3	3	3	2	2	37
要支援2	4	4	5	5	5	5	7	7	7	6	7	7	69
要介護1	22	20	18	17	18	19	19	19	19	18	16	16	221
要介護2	24	23	21	22	24	23	22	22	22	22	23	25	275
要介護3	16	17	16	15	14	13	12	12	14	14	12	13	168
要介護4	8	9	8	10	9	10	9	7	8	9	8	8	103
要介護5	10	11	11	13	13	13	13	12	13	13	12	12	146
計	87	87	82	86	87	88	86	82	86	85	80	83	1,019

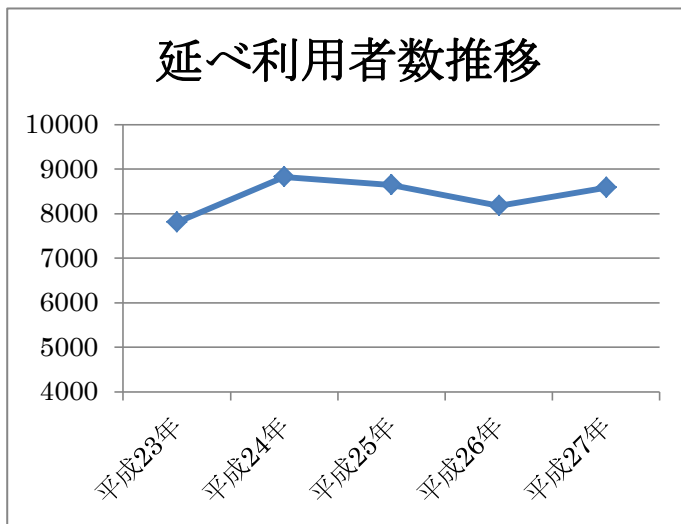


②月別延べ利用者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要支援1	14	12	12	18	15	18	12	12	11	12	8	8	152
要支援2	33	32	43	43	41	38	52	54	55	44	52	57	544
要介護1	165	176	168	143	161	185	182	170	163	158	154	168	1,993
要介護2	233	234	209	241	230	233	228	216	212	180	198	232	2,646
要介護3	148	150	151	128	121	104	118	109	103	97	84	85	1,398
要介護4	55	60	59	83	65	69	68	59	53	51	53	52	727
要介護5	77	88	90	94	96	100	105	85	101	84	96	103	1,119
計	725	752	732	750	729	747	765	705	698	626	645	705	8,579

営業日数：309日、一日平均：27.7名



③月別実施行事

月	行事名
4月	ゲートボール・お花見・こいのぼりタペストリー作り・桜餅づくり・パックキッカーゲーム
5月	風船バレー・ロープウエイゲーム・カード作り・買い物ツアー
6月	溪南保育園訪問・カラオケ大会・うちわ作り・魚釣りゲーム・わらび餅作り
7月	七夕・クシュポンゲーム・白玉クリームあんみつ・風鈴作り・輪投げ
8月	夏祭り月間(盆踊り・おみこし・綿あめ・お好み・かき氷・布箱小物作り)
9月	風船バレー・かぼちゃ饅頭・敬老会(社交ダンス・大正琴等)・香袋作り・買い物ツアー
10月	おにぎり・ハロウィン壁飾り・運動会(玉入れ・コップリレー)・作品展見学
11月	作品展見学・たこ釣りゲーム・紅葉狩り・五平餅・クリスマスツリー作り
12月	クリスマス会・しめ縄作り・ロープウエイゲーム・カラオケ大会・お鏡餅作り
1月	初詣(本土神社)・百人一首大会・新年会(オカリナ・ギター・三味線等)・餅つき大会
2月	節分ゲーム・たこ焼き・お雛様の壁飾り・ボーリング
3月	テーブルホッケー・おはぎ・買い物ツアー・フェルトで作るブローチ・UVレジンアクセサリー作り・牛乳パックジェンガゲーム

生活相談員所感

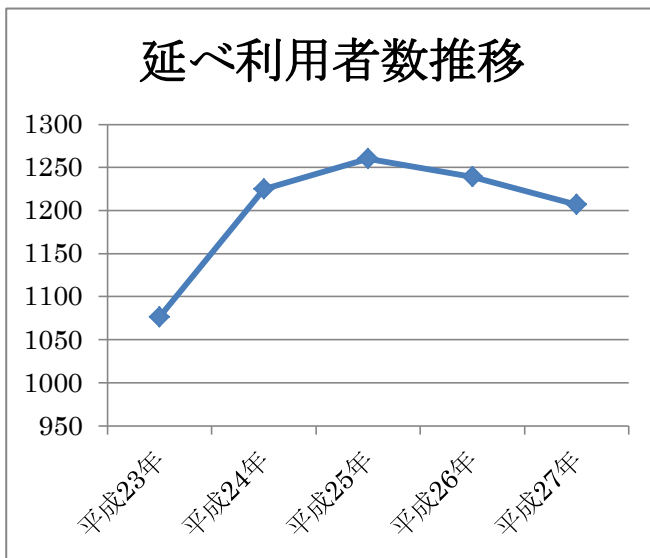
依然として圏内の通所施設は増加傾向をたどっており、中規模デイはますます利用者確保が厳しくなっている。支援1より介護5までの利用者を1フロア内にてサービス提供する現状も限界が見られる。それぞれの身体状況に合わせた利用者主体のサービス展開も視野に入れ、レクリエーションや機能訓練の見直しを検討・実施する必要がある。また体調不良や状態悪化による利用停止、ショートステイの長期利用と在宅離れも深刻化している。しかし新規の定着率は9割以上であり、利用者、利用者家族からの紹介等も頂き安定している。中重度ケア体制加算・認知症加算等をとれる体制となり、居宅介護支援事業所へのPR活動にも厚みが出たと思われる。

4、居宅介護支援事業所

①月別利用者数

(単位:人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要支援1	3	4	4	4	5	5	4	5	6	6	7	7	60
要支援2	8	7	7	7	8	10	11	12	13	11	12	12	118
要介護1	28	27	27	25	27	26	24	23	22	24	24	24	301
要介護2	30	31	29	28	27	28	27	26	24	26	25	25	326
要介護3	18	19	17	16	18	15	16	17	19	16	16	15	202
要介護4	12	11	8	9	9	12	11	11	13	14	14	15	139
要介護5	8	6	6	5	5	5	5	6	5	4	3	3	61
計	107	105	98	94	99	101	98	100	102	101	101	101	1,207



②認定調査件数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
10	5	6	7	9	9	5	6	9	7	8	10	102

③研修参加状況

平成27年5月14日	フレッシュケアマネ部会
平成27年6月10日	主任ケアマネ部会
平成27年6月17日	施設を知ろう
平成27年8月11日	高齢者の権利を守る
平成27年9月9日	フレッシュケアマネ部会
平成27年10月9日	終末期の高齢者を支える
平成27年10月19日	中堅ケアマネ部会
平成27年11月11日	ケアプランみんなで点検
平成28年2月28日	虐待の把握と対応のあり方
平成28年3月3日	見える事例検討会
平成28年3月18日	多治見市認定調査員研修

④市民対象介護教室開催状況

平成 27 年 5 月 20 日	特養入居後に認知症が改善した事例について
平成 27 年 11 月 19 日	特養入居後の家族の役割

介護支援専門員所感

平成 26 年度との実績を比較すると、月平均で約 3 名弱の減少となった。新規利用者獲得の指標となる初回加算の取得に関しては、26 年度が 39 件、平成 27 年度が 41 件と新規利用者獲得に関しては微増となった。新規獲得が増加したにもかかわらず、実利用者数が減った原因としては、施設が増え過ぎて、特別養護老人ホームを除くほとんどの施設で定員割れの状態で、金額の折り合いさえつけばすぐに入居が可能であることがあげられる。10 年前は約 5 割以上の利用者が在宅での看取りで最期を迎えていたが、現在は、在宅サービスが充実したにも関わらず、在宅での看取りは 3 割を切る状態である。家族関係が希薄になり、在宅での限界点が低下しているのも一つの要因といえる。

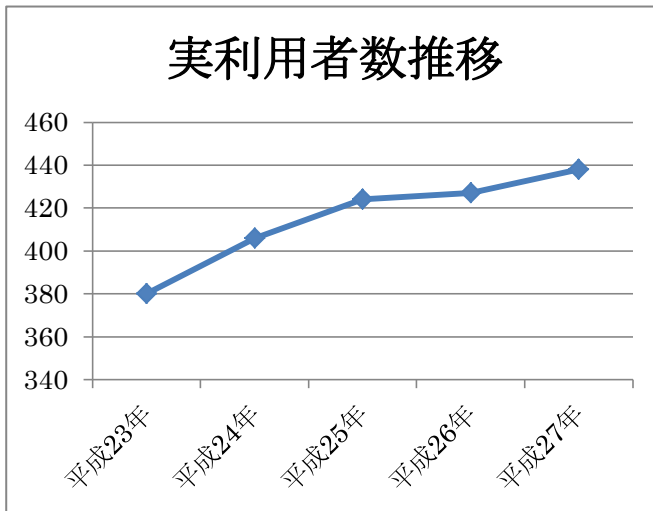
平成 27 年度は、地域包括支援センターとの連携に力を入れた結果、新規利用者の紹介が増加し安定的に利用者を獲得することが出来た。継続して包括支援センターとの連携を図っていく。

5、訪問介護

①月別利用者数

(単位:人)

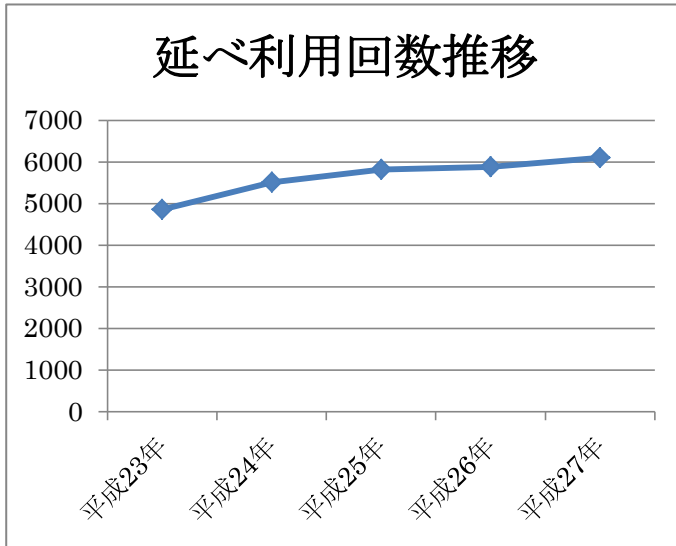
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要支援1	2	2	2	2	1	1	1	2	3	3	5	4	28
要支援2	6	6	6	6	6	7	7	8	10	9	11	11	93
要介護1	10	11	13	12	13	11	9	8	7	7	9	8	118
要介護2	8	8	7	6	6	6	7	6	6	5	5	5	75
要介護3	4	3	3	3	3	1	1	1	1	2	2	1	25
要介護4	2	2	2	3	3	6	7	6	8	6	6	6	57
要介護5	6	5	3	4	3	3	3	3	3	3	3	3	42
計	38	37	36	36	35	35	35	34	38	35	41	38	438



②月別延べ利用回数

(単位:人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要支援1	12	14	13	13	8	8	9	12	20	20	32	26	187
要支援2	61	66	64	57	48	57	62	66	70	61	78	85	775
要介護1	86	108	132	146	152	106	95	82	80	79	71	81	1,218
要介護2	109	108	81	79	83	67	98	74	75	68	69	74	985
要介護3	35	36	41	57	62	5	4	4	4	10	55	57	370
要介護4	86	88	86	92	92	177	159	165	195	180	174	148	1,642
要介護5	95	112	78	73	73	72	69	68	72	71	67	71	921
計	484	532	495	517	518	492	496	471	516	489	546	542	6,098



③研修参加状況

平成 27 年 4 月	利用者との付き合いに関するマナー
平成 27 年 5 月	住み慣れたご自宅でご家族を看取られる方へ
平成 27 年 6 月	介護保険の費用負担が変わります。
平成 27 年 7 月	熱中症について № 1
平成 27 年 8 月	熱中症について № 2
平成 27 年 9 月	災害に備えて
平成 27 年 10 月	多治見市訪問介護情報交換会に参加して
平成 26 年 11 月	成年後見人制度について
平成 26 年 12 月	「多治見市総合事業」について
平成 27 年 1 月	ノロウイルスと次亜塩素酸ナトリウムについて
平成 27 年 2 月	おいしく安全に食べるために
平成 27 年 3 月	「多治見市総合事業」について

サービス提供責任者所感

要支援の利用者が増加しており、年度末にはヘルパーの事業所始まって以来 4 割近くを占めることとなった。利用者数、利用回数ともに年々増加しており、軽度要介護者の在宅でのニーズも高いまま推移した。

ホームヘルパーの募集に対する応募がなく、人材不足が深刻であるが、職員間で協力してサービス提供を行った。

6、ケアハウス

①月別実利用者数

(単位：人)

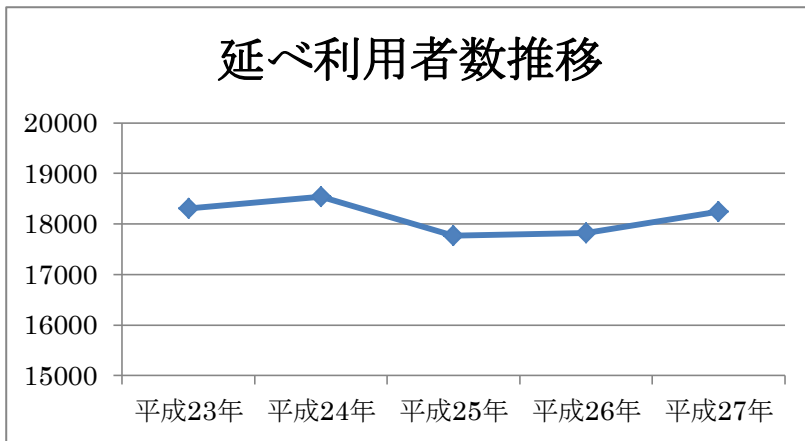
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要支援1	8	8	6	6	9	8	9	9	8	7	7	8	93
要支援2	6	6	7	7	7	7	7	7	8	7	8	8	85
要介護1	15	16	16	18	17	18	16	16	16	16	17	17	198
要介護2	12	12	13	10	9	7	6	7	7	7	7	7	104
要介護3	5	4	4	4	3	4	6	6	6	5	5	5	57
要介護4	4	4	4	5	5	5	5	5	5	7	5	5	59
要介護5	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	2
計	50	50	50	50	50	50	50	50	50	49	49	50	598

②月別延べ利用者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要支援1	240	248	180	186	279	240	279	270	248	217	203	248	2,838
要支援2	180	186	210	217	217	210	217	210	248	217	232	248	2,592
要介護1	450	496	480	558	527	540	496	480	496	496	493	527	6,039
要介護2	360	372	390	310	279	210	186	210	217	217	203	217	3,171
要介護3	150	124	120	124	93	120	186	180	186	155	145	155	1,738
要介護4	120	124	120	155	155	150	155	150	155	217	145	155	1,801
要介護5	0	0	0	0	0	30	31	0	0	0	0	0	61
計	1,500	1,550	1,500	1,550	1,550	1,500	1,550	1,500	1,550	1,519	1,421	1,550	18,240

延べ利用者数推移



③年齢分布

(単位：人)

性別	～59	60～ 64	65～ 69	70～ 74	75～ 79	80～ 84	85～ 89	90～ 94	95～ 99	計	平均	最高	最低
男性	1	0	0	0	0	5	5	3	0	14	84	94	55
女性	0	0	0	0	1	6	12	12	4	35	89	100	77
合計	1	0	0	0	1	11	17	15	4				

平成28年3月31日付

④入退所の状況

(単位：人)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
入 所 者	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
	女	0	1	2	2	0	1	1	0	1	1	0	1	10
	計	0	1	2	2	0	1	1	0	1	2	0	1	11
退 所 者	男	0	0	0	1	0	0	0	0	2	0	0	1	4
	女	0	1	2	1	0	1	1	0	0	2	0	0	8
	計	0	1	2	2	0	1	1	0	2	2	0	1	12

⑤入所経路

(単位：人)

入所前	男	女	計
自宅	1	4	5
介護老人保健施設	0	0	0
医療機関	0	4	4
その他	0	1	1
計	1	9	10

⑥退所者

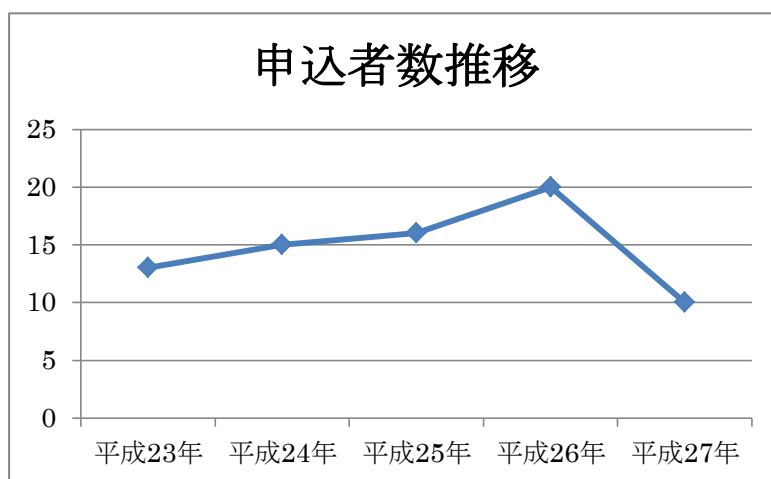
(単位：人)

	男	女	計
入院	0	3	3
入院中に死亡	0	0	0
施設内で死亡	0	0	0
他施設へ	2	2	4
ビアンカ特養へ	0	3	3
自宅へ	0	1	1
計	2	9	11

⑦申込者

(単位：人)

保険者	男	女	計
多治見市	1	5	6
土岐市	0	2	2
瑞浪市	0	0	0
その他	0	2	2
計	1	9	10



⑧医療機関への通院者数

(単位:人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
救急外来	1	2		3					3		1		10
内科	3	5	3	10	2	10	6	10	12	12	5	8	86
泌尿器科	2	1							1		2	2	8
整形外科	2	3	2	1	1	1	6	1	8		1	2	28
眼科		1	2	1	3	1	3	2	4	1		2	20
精神科													0
脳外科													0
歯科	1		4			1				1	2	2	11
皮膚	1	1	1	1			1					1	6
合計	10	13	12	16	6	13	16	13	28	14	11	17	169

⑨入院者数

(単位:人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内科	1	1	2	3	2	4	1	4	2	3	1	2	26
整形外科						1		1	1			1	4
その他											2		2
合計	1	1	2	3	2	5	1	5	1	3	3	3	30

平成 26 年度延べ入院者 24 人 (年度比+6 人)

⑩研修参加状況

平成 27 年 6 月	介護支援専門員実務従事者基礎研修 老施協東濃支部幹事会議 岐阜県 DCAT 隊員に対する研修 福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程中級コース
平成 27 年 7 月	岐阜県老施協職場で活かせるコーチング研修 東海北陸ブロック老人福祉施設研修会
平成 27 年 8 月	岐阜県老施協東濃支部介護職員研修
平成 27 年 9 月	岐阜県老施協東濃支部事務員研修
平成 27 年 10 月	岐阜県老施協東濃支部幹事会議
平成 27 年 11 月	介護保険指定事業所集団指導 岐阜県老施協東濃支部相談員研修
平成 28 年 1 月	経営協社会福祉法人制度改革対応セミナー 岐阜県老施協施設長・事務長研修
平成 28 年 2 月	岐阜県共済会事務担当者研修
平成 28 年 3 月	軽費・ケアハウス施設長・職員合同研修 岐阜県老施協東濃支部幹事会 岐阜県老施協東濃支部介護職員研修 岐阜県老施協東濃支部軽費研修会

生活相談員所感

介護・看護・事務スタッフ全体として、介護看護技術、医療知識、入居者やその家族への対応力、外部接客態度などを総合して、チームワークの強化、施設のレベルアップを感じた。入居者の日常生活の中で、[気づき]から小さな異変も見逃さない観察力で家族に報告、又主治医に上申、受診・通院・入院治療の対応を早期に行う事によって、結果ケアハウスでの在籍期間が長く、元気に過ごして頂くことができ、入居者、その家族との信頼関係はより固く築けた。

ケアハウスビアンカの周知がまだまだ不十分であるので、営業活動として、多治見市・土岐市・瑞浪市・可児市・春日井市の地域包括支援センターや居宅介護支援事業所、病院等へ出向き、案内・説明を随時実施した。空き情報通達は常にファックス・電話など行った結果、施設見学の依頼や介護支援専門員からの紹介があり、なんとか満床を守ってきたが、年度の後半頃より施設見学や紹介が減少した。施設選びを検討する側が金額・サービス等を以前よりも増して吟味し慎重を期していると感じた一年であった。

計画作成担当者所感

開所10年目を迎え、入居者の高齢化が一段と進んだ。長期の入居者も、身体機能の低下に伴い、介助が必要となる事例も複数見受けられた。基礎的な疾患において、注意を要する入居者が多く、様子観察を徹底する必要性を感じた。観察眼を養い、早期に看護職員へ報告することが出来た。認知症の周辺症状が現れている入居者も増え、積極的にコミュニケーションをとるなど、落ち着いて過ごして頂けるよう対応を心掛けた。また、その周りの入居者にも影響を及ぼさないように配慮した。

ケアワーカー所感

季節ごとにあつたレクリエーションを提供し、主要行事である夏祭りでは例年とは違った企画をして、施設一丸となって盛り上げることが出来た。また、日常生活において、細かな観察をすることで入居者の異変を早期発見することが出来た。入居者の状態が変わるたび、職員間で話し合いの場を持ち、情報を共有、統一する事で個々にあつた介護をすることができた。

看護職員所感

全体的に日常生活の自立度はある程度保たれているが、内臓疾患に伴う入居者の入退院、入退所が目立った一年であった。介護士の日常の観察力が鋭く、日常生活動作の僅かな変化も見逃さない介護力により、急変の前駆症状で早期発見につながった。入居者の個に対する介護・看護が全般的に浸透してきたとも感じられる一年であった。